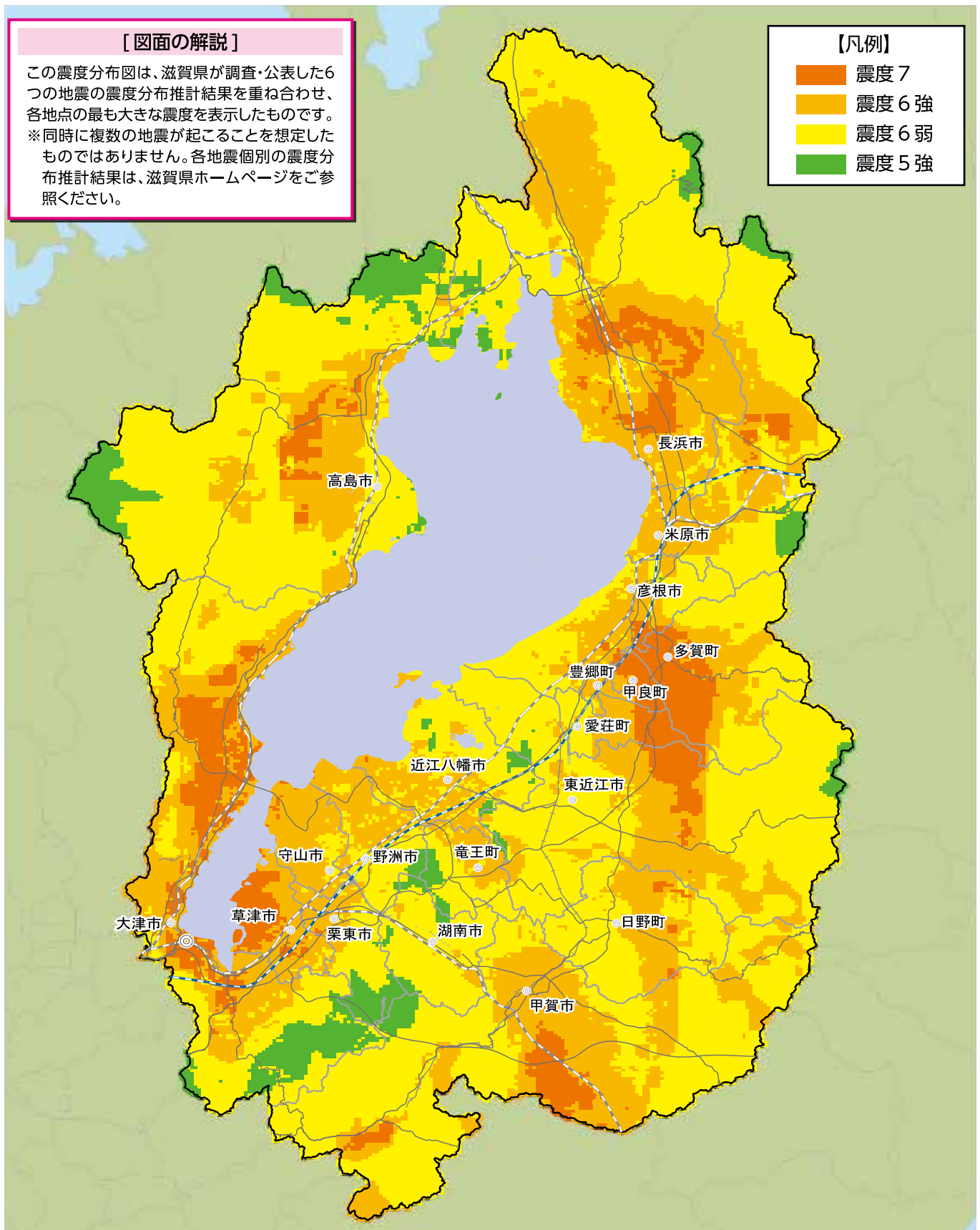


どのくらいの規模なの？

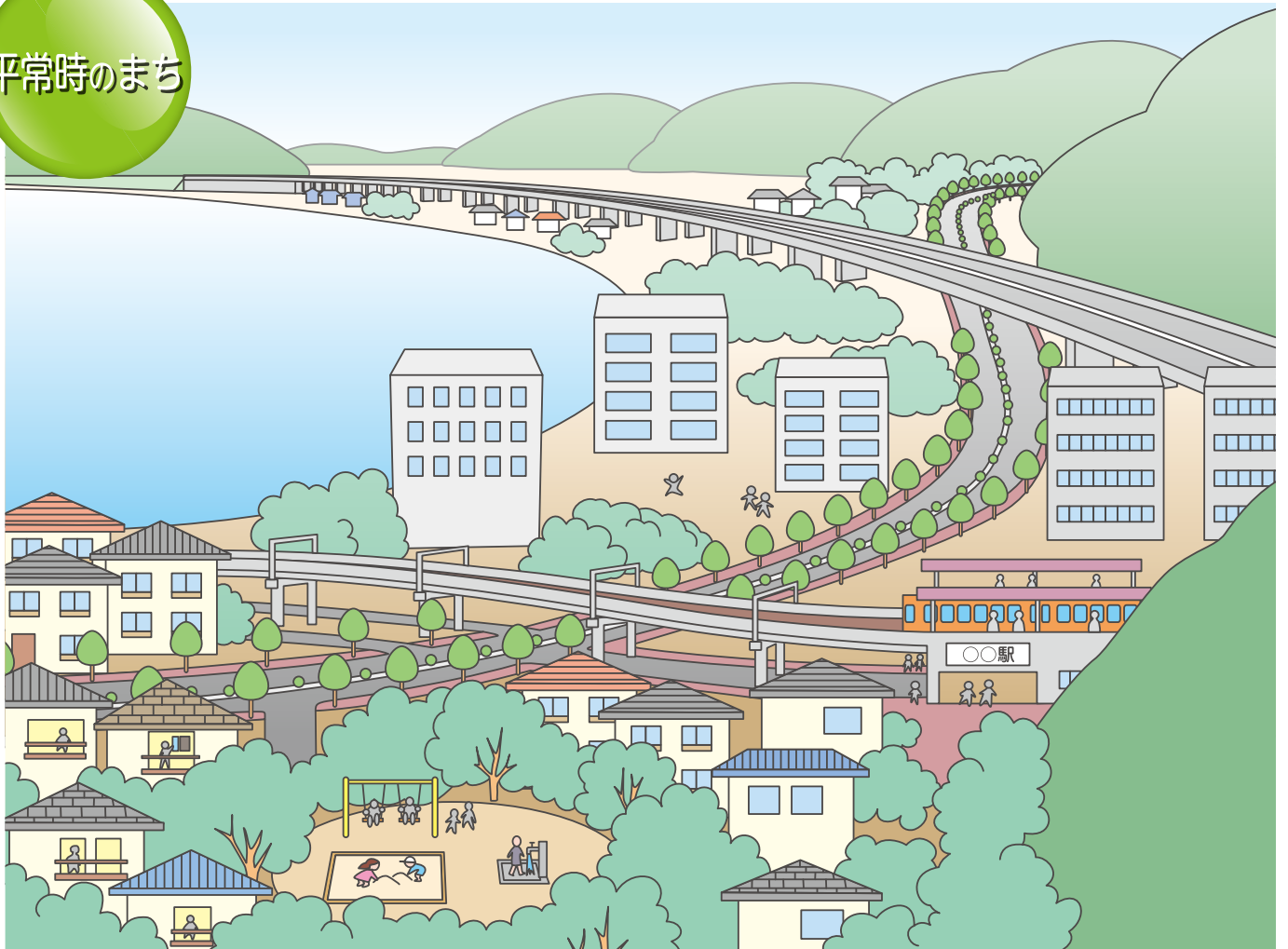
滋賀県では、県内に特に大きな影響を及ぼす可能性のある地震が発生した場合の、想定される震度や発生する被害の想定を行いました。その結果、最大で震度7となることが想定されています。



■ 図 6つの地震の想定震度を重ね合わせた震度分布図

第2章 地震が起こったら

平常時のまち



水を備蓄する必要があるなあ…。



防災豆知識① 電気・水道は使える？

大きな地震が発生した場合、普段のみなさんの生活を支えている電気や水道など、ライフラインの支障が想定されます。水道については、管路に被害を及ぶと復旧に時間を要するため、断水が長期間に及ぶ場合もあります。

地震	県内平均停電率		県内平均断水率	
	直後	1週間後	直後	1週間後
琵琶湖西岸断層帯地震	63%	ほぼ0%	49%	38%
花折断層帯地震	47%	ほぼ0%	34%	24%
木津川断層帯地震	26%	ほぼ0%	10%	7%
鈴鹿西縁断層帯地震	40%	ほぼ0%	21%	14%
柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震	29%	ほぼ0%	14%	10%
南海トラフ巨大地震(基本ケース)	81%	0%	40%	5%
南海トラフ巨大地震(陸側ケース)	88%	ほぼ0%	68%	27%

※停電率・断水率は、過去に発生した地震時の震度と被害率の関係から推計(平成25年滋賀県被害想定調査結果より)抜粋
 ※各停電率・断水率の数値は各地震による最大値(ピーク値)を記載

地震が起ったら普段の
くらしがどう変わるかイ
メージしてみよう。



地震が
起こると

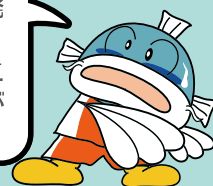


防災豆知識② 避難所への避難が必要に!? また、外出先から帰宅することも困難に!?

地震による被害と言えば、まず揺れによる建物倒壊が思い浮かびますが、その他にも上の絵のようにさまざまな被害が発生します。これらの被害によって、避難所への避難が必要となったり、外出先から帰宅できなくなる人（帰宅困難者）が多数発生することが想定されます。

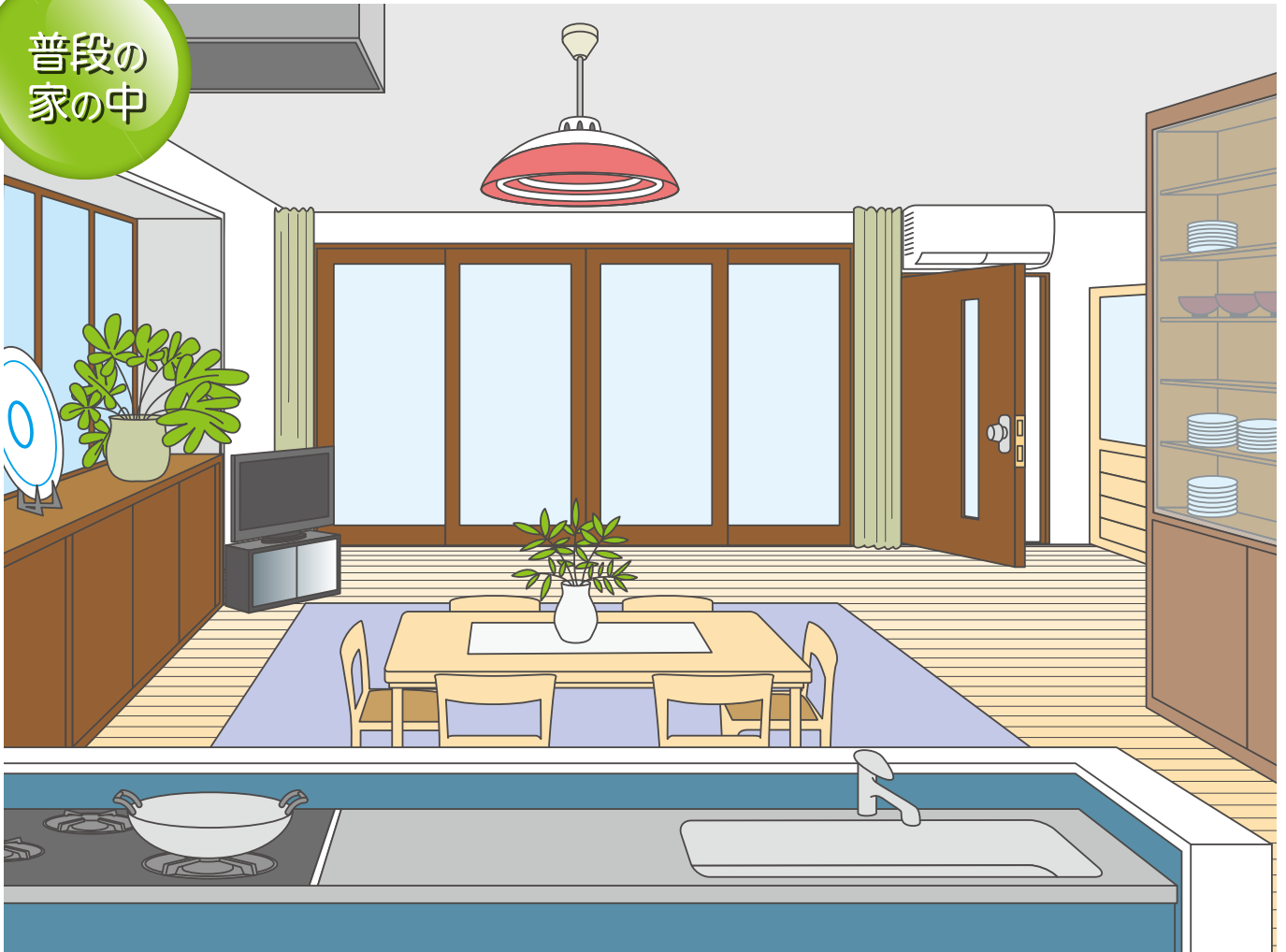
地震	避難者数(人)	帰宅困難者(人)
琵琶湖西岸断層帯地震	249,534	170,000
花折断層帯地震	139,894	130,000
木津川断層帯地震	42,672	120,000
鈴鹿西縁断層帯地震	81,703	120,000
柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯地震	74,640	100,000
南海トラフ巨大地震(基本ケース)	30,729	170,000
南海トラフ巨大地震(陸側ケース)	158,550	170,000

こんなにたくさんの避難者や帰宅困難者が発生するのなあ。
地震後の避難生活のことも考えておく必要があるなあ。



※避難者数の数値は、避難者数がピークとなる1週間後の数値で、過去に発生した地震時の震度と被害率の関係等から推計したもの(平成25年滋賀県被害想定調査結果より抜粋)。また、避難者数には、避難所・避難所以外の避難者数の合算値。
※帰宅困難者は、県内間で外出している人と、県外から県内に外出している人の合算値。

普段の
家の中



防災豆知識③ どの程度の揺れでどのような被害が発生するの？

地震の揺れは、震度で表現されることが多いです。この震度と被害の関係は一般的に以下のような関係にあると言われています。

地震の揺れと被害想定

震度 4	震度 5弱	震度 5強	震度 6弱	震度 6強	震度 7
ほとんどの人が驚く。食器などは音をたて、置物が倒れる。	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。食器類が落ちる。	歩くことが難しい。固定されていない家具や補強されていないブロック塀が崩れることがある。	立っていることが困難。耐震性の低い木造建物には倒壊や損壊するものがでてくる。	はわないと動くことができない。耐震性の低い建物では倒壊するものが多い。	耐震性の高い建物でもまれに傾くことがあり、耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では倒れるものが増える。